

■秋月悌次郎 会津藩士。下士から拔擢され、交際範囲広く調整役も挫折、小泉八雲から“神のような人”と敬愛された。

あきづきていじろう

シボ 小嶋滝塾 1824 = 会津若松城下で、平氏の末裔といわれる下級藩士丸山胤通の次男に生まれる。

幼少より学問を好み、

天保大飢饉始 1833 = 9歳 :

高島砲術・ 1834 = 10歳 : 藩校{日新館}に入り、

大塩平八郎乱 1837 = 13歳 :

蚕社の獄・ 1839 = 15歳 : 藩士高津平蔵について詩を学び、以後、生涯詩文が最大の楽しみとなる。

天保改革弾圧 1842 = 18歳 : 選ばれて、江戸に上り、藩儒牧原只次郎に経術を学ぶ一方、幕府儒官松平慎斎の塾で漢学を究める。

阿部正弘首座 1845 = 21歳 :

孝明天皇・ 1846 = 22歳 : 昌平坂学問所に入り、佐藤一斎・安積良斎に師事し、外でも諸師について、諸学を学ぶ。

同窓の俊才、水戸の原市之進・薩摩の重野安繹らと親交、

国定忠治疎・ 1850 = 26歳 : 寮長となり、微禄を受ける。

尊徳報徳論・ 1851 = 27歳 :

ペリー来航・ 1853 = 29歳 :

松下村塾・ 1856 = 32歳 : 学問所を出、新潟・尾張後、藩命で西国諸藩を遊歴、

長州にも立寄り、奥平謙輔の知遇を得、薩摩の重野安繹も訪問、

桜田門外変・ 1860 = 36歳 : 江戸に戻り、

遣欧使節・ 1861 = 37歳 : *桜田門外の変処理で外島機兵衛の副使として活躍、

生麦事件・ 1862 = 38歳 : 幕府から信任受けて藩主松平容保が京都守護職となり、家老横山主税推薦で、その公用方につく。越前藩中根雪江を訪問し、両藩会盟について相談。老中格小笠原長行に初めて謁す。

8月18日政変 1863 = 39歳 : 足利三代木像鼻首事件で名を上げ、'会津に秋月あり'と尊王思想が知られ、公武合体めざす薩摩藩の高崎佐太郎が来訪、会薩同盟に、中川宮も巻込んで、激派公家の追放の政変を実現、

禁門の変・ 1864 = 40歳 : 佐幕派主体の会津藩士に嫌われ、禁門の変後、理解者だった家老横山主税が死去するや、

薩摩藩士密航 1865 = 41歳 : 結婚。会津藩蝦夷領代官に左遷される。

薩長同盟・ 1866 = 42歳 : 坂本竜馬によって、薩長同盟が成立するとともに、会津藩の勢力が衰退、

大政奉還・ 1867 = 43歳 : 会薩の改善修復のため、急命で京都に呼び戻されたが時すでに遅く、

明治維新・ 1868 = 44歳 : *鳥羽伏見の戦となり、副軍事奉行として会津竜城戦を指揮するうち限界を悟り、米沢藩を通じて板垣退助に降伏の議を申し入れ、落城後、猪苗代で謹慎。長州奥平謙輔から会津藩士の心揺さぶる手紙があり、変装脱走して、奥平を訪ね、会津三絶といわれる詩「有故潜行北越 帰途所得」をつくる。東京伝馬町に移獄、

戊辰戦争終・ 1869 = 45歳 : 会津戦争責任者として終身禁固に処せられ、

この間、転々と移されて、(会津藩が転封)された青森県の斗南藩に移ることを許された直後、

学問のすすめ 1872 = 48歳 : 特赦となり、帰郷。老母養うべく若松県の副教授になった直後、新政府から左院少議生に登用されるが、

明治6年政変 1873 = 49歳 :

自宅で塾を開き、青少年らの面倒まで見ながら、生活。新政府に仕えることを潔しとせず、

初の民間工場 1875 = 51歳 : 左院廃止で、内務課長高崎正風のもとに配属、太政官となるが、高崎の栄転機に退官し、帰郷。

大久保暗殺・ 1878 = 54歳 :

母が死去すると、再上京し、家塾・大学予備門・第一高等学校などで教鞭をとる。

明治14年政変 1881 = 57歳 :

新体詩抄・ 1882 = 58歳 : かつての師慎斎の二十回忌に祭文を奉じる。

国民之友始・ 1887 = 63歳 :

帝国憲法発布 1889 = 65歳 :

帝国議会始・ 1890 = 66歳 : 会津降伏式を追懐した「泣血甞」。*熊本第五高等学校の漢学・倫理の教授となり、

足尾鉞毒始・ 1891 = 67歳 : 長男が死去。赴任してきた小泉八雲から、"神のような人"と敬愛され、

郡司千島探検 1893 = 69歳 : この年、八雲が熊本を去る。付属学生寮の舎監にもなり、教え子からも慕われて、

日清戦争始・ 1894 = 70歳 :

日清戦争終・ 1895 = 71歳 : *退任して、東京に戻り、

白馬会・ 1896 = 72歳 :

ビアノ国産化・ 1900 = 76歳 : 病没した。

松本健一「秋月悌次郎 老日本の面影」、